

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3873700409
法人名	株式会社 ステージアップ
事業所名	グループホーム優瑠里
所在地	愛媛県八幡浜市保内町喜木1-166-1
自己評価作成日	平成29年2月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成29年3月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・運営理念にもある、「笑顔」「心身の健康」「生きがい」を大切にして日々の生活を送っている。また、明るい環境で笑い声がいつでも聞こえる。家族、知人、地域の方がいつでも遊びに来てくれるグループホーム。
 ・職員それぞれが改善活動として、食事班、排泄班、入浴班の3班に分かれ、利用者の改善すべき点や生活の質の向上、利用者の情報の共有に努めている。
 ・利用者一人一人の現在の有する能力を見極め、食材切り、洗濯物干し及び洗濯物たたみ等出来る事は何でもしてもらおう。その中でレクリエーションでは、職員、利用者共に楽しめるよう努めている。
 ・悪い所を見つけて治す医療的な介護ではなく、いい所を見つけて伸ばす保育的な介護を目指している。
 ・ヘルプ(余計なお世話によって、相手を物言わぬ受け身の人と変え、自分のやりたいことや意思を削いでしまう可能性がある)ではなく、サポート(やる気を出してもらおうための黒子的な役割、出来ない所は手伝い、出来る事を伸ばし、自分にもできる事があると気付いてもらう)でありたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所はみかん畑に囲まれた閑静な新興住宅地の中にあり、開設して13年目を迎える。「笑顔、心身の健康、生きがい」という理念を掲げ、利用者も職員も笑顔で、利用者が役割を持って暮らしていくことができるよう支援している。運営推進会議には区長をはじめとして民生委員、老人会長、婦人会長、サロン世話人、ボランティア、介護相談員等様々な人々が参加し、熱心に協議を行いながら、事業所の行事や防災訓練に協力している。また、地域の幼稚園や保育所、小学校の行事に招待されて交流したり、地区の秋祭りには見物席を用意してもらおう等、地域に受け入れられ根付いている。利用者のペースを大切にされた職員の穏やかな声かけの様子が印象的で、職員は熱い思いを持って研修に励み、利用者本位のケアを実践しようと努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム優瑠里

(ユニット名) Aユニット

記入者(管理者)

氏名 神野 順一

評価完了日 平成 29 年 2 月 18 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 仕事をする上で目的を明確にし、理念である「笑顔」「心身の健康」「生きがい」を心がけて、利用者の日々の暮らしを支えている。 毎月のスタッフ会議で、理念に繋がる接遇や行動、思考について話し合い、実践に繋げている。</p> <p>(外部評価) 開設当初に作成した「笑顔・心身の健康・生きがい」という理念を継承している。理念の中には、利用者も職員も笑顔で、少しの変化も見逃さず細心の注意を払って、利用者が役割を持って暮らしていくことができるよう支援したいという思いがこめられている。玄関には筆で描いた理念が掲示されており、職員はタイムカード横に貼られた理念を見ながら出勤している。また、重要事項説明書に掲載して家族にも周知しており、職員はケアに行き詰った時理念に立ち戻って考えるようにしている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域の行事、保育所や幼稚園の行事、小学校の行事に相互に参加したりしている。また、スタッフが、地域の会（婦人会やPTA）の会員になっている。さらに、どこへ出向いても歓迎され、大切にされていると感じる。</p> <p>(外部評価) 開設当初より近所つきあいを大切にしてきたことが根付き、地域行事に出かけたり、事業所行事に来てもらったりと、相互に交流する機会が恒例になっている。利用者は、幼稚園と保育所の運動会や音楽会に招待を受けて参加しており、小学校の運動会では特別席が設けられ、参加する競技を住民が手伝ってくれている。また、事業所が行う夕涼み会や地域の体育館を借りて実施する運動会は、地域住民やボランティア、家族が大勢参加して盛大に行われている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 地域の認知症の勉強会の講師を引き受けたり、小学、中学、高校生の学習を受け入れを行ったり、入居者との交流の中で、認知症の方への理解を深めて頂く様に取り組んでいる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサー ビス向上に活かしている	<p>(自己評価) 年間を通じて開催しており、事業所内での取組みや活動、 グループホームでの現状や課題を報告したり、行事に参加し てもらい気付きや反省等の意見交換を行っている。会議の内 容を職員には、スタッフ会議で報告し、出された意見や要望 を話し合い、改善に生かしている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は家族や区長、民生委員、老人会長、婦人会長 など様々な関係機関の代表者、市担当職員等多くの参加を得 て2か月に1回開催している。会議では利用者の状況や活動 報告のほか、テーマを設定した勉強会や避難訓練等を行い、 参加者から意見や助言を得ている。会議は避難時の役割分担 等、地区住民との協力体制を構築する上で重要な機会になっ ている。</p>	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くよう に取り組んでいる	<p>(自己評価) 運営推進会議に行政の方にも参加してもらっている。 支援困難事例や事故報告等を随時報告、相談し意見をも らっている。 市主催のグループホーム連絡協議会に参加し、意見交換や行 政の指導を受け、サービスの向上に生かしている。</p> <p>(外部評価) 市職員は運営推進会議に参加して事業所の状況を把握して おり、情報提供や助言を得ている。職員は介護保険手続きや報 告に市担当課を訪れることが多く、良好な関係がとれている と感じている。成年後見制度利用の際は、地域包括支援セン ターの助力を得てスムーズに利用を開始することができた。 また、毎月介護相談員が来訪し、第三者の立場で評価や意見 をもらったり、利用者から時間をかけて話しを聞いてくれて おり、連携がとれている。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>(自己評価) 身体拘束等の排除のための取組みに関する理念及び方針を 施設内に掲示している。身体拘束、虐待は行わない事を全て の職員が正しく認識しており実践している。 玄関は、夜間帯を除き常に解放されている。</p> <p>(外部評価) 虐待防止ケアについて外部研修に参加し、研修内容を全職員 が共有して拘束をしないケアに努めている。転落や転倒の危 険がある利用者に対し、安全を確保するために4点柵を使用 する際は、家族の了承を得て行っているが、夜間離床セン サーを設置したり、床上にふとんを敷いて安全を図りながら 自由に行動できるよう工夫している。また、共用空間に必ず 見守る職員が1名居るよう、常に声を掛け合っている。言葉 の拘束についても留意しており、カンファレンスで話し合っ て改善するよう努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 常に入居者の状態に注意を払い、スタッフ間で連携をとっている。スタッフ会議の議題として、学んでおり、身体拘束、虐待は行わない事を全ての職員が正しく認識しており実践している。また、研修や勉強会などあれば参加している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 社会福祉協議会より、社会福祉士を講師に招き研修会を開催した。研修参加者は、スタッフ会議時に研修内容を報告し、職員全体で学んでいる。制度利用の入居者がおり、制度を理解している。また、担当者の方もご本人の様子を見に来て下さったり、その都度情報交換をさせて頂いている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には重要事項説明書やパンフレットを使い、利用料金、職員体制、その他細かな説明を行っている。わからない事や質問には繰り返し説明を行ったり、契約後の問い合わせにも対応している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 玄関に意見箱を設置している。来訪時や電話連絡、運営推進会議等で要望や意見を聞いている。毎月、さわやか相談員の訪問がある。出された意見は、スタッフ会議で検討している。 (外部評価) 職員は家族面会時に声をかけたり、事ある毎に電話連絡を行い、家族と話し合う機会を多く持つことが、良好な関係を築くことにつながると考えている。介護計画を更新する際は利用者と家族の意見や意向を確認し、来訪が難しい家族には電話で聴き取っている。また、担当者は毎月の便りに、利用者の生活の様子を書いた手紙を添えて家族に送付している。	職員は家族と共に利用者を支えたいと考えているが、様々な理由で疎遠となる家族も少なくなく、もっと事業所に足を運んでもらいたいと思っている。今後も行事案内や丁寧な連絡を続け、諦めないで働きかけを継続すると共に、関心を持って事業所の行事に参加してもらえるよう工夫することを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月、スタッフ会議を行い、経営者と職員全員が参加し、研修報告や意見交換を行っている。ユニット毎に改善活動を行い、それぞれの取り組みや活動報告を行っている。 (外部評価) 経営者と職員全員が参加するスタッフ会議が毎月開かれ、意見や提案を述べる機会がある。会議では、食事、入浴、排泄班の活動報告がされ、法人内他事業所とも交流している。全体での会議終了後グループホーム会議やユニット会議が開催され、ケアカンファレンスでは職員で話し合って介護内容の検討を行っている。職員は、年間個人目標を立て、年1回振り返りを行い自己評価し、レベルアップに努めている。事業所では子どもを産み育てながら就労できる労働環境や研修の補助制度が整備されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 勤務3年以上の職員には、特別手当や退職金共済への加入制度がある他、各資格手当の支給がある。 経営者がスタッフ会議にて、経営報告や各手当等の説明を行っている。又、経営者がほぼ毎日顔を出し、職員の意見を直接聞いている。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 多方面への研修の参加を実施している。職員全員にケアの技術や知識を身につける機会が確保されており、希望する研修に参加している。研修に参加した職員は、スタッフ会議にて研修内容を報告し、再学習する機会を設けている。介護福祉士試験等の資格取得の為の研修参加費用の一部助成がある。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 認知症実践者研修会への参加、市や南予グループホーム連絡協議会主催の研修会や勉強会に参加し交流を図っている。行事を通じて他施設と交流し、他施設の良い所を取り入れている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 利用前の面談でご本人やご家族の思いを十分に伺い、ケアプランを作成している。ご本人の思いを生かしながら、日常生活の支援をおこなっている。環境の大きな変化に戸惑われたり不安を訴えたりされた場合、家族様の協力も利用させて頂いている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ご本人を含めた面談とご家族のみの面談を行い、家族の思いを受け止められる様、努力している。 無理強いすることなく家族の思いが話せる様な関係作りをしていきたい。	
17		○初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 順番優先としているが、早急な対応が必要な相談者には、可能な限り柔軟な対応を取っている。 他のサービス機関の紹介や、グループホーム共用ディサービスの利用を進めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 支援する側、される側の意識を持たず、食事の準備、レクリエーション等共に楽しみながら過ごし、人生の先輩としての知識を学ばせてもらっている。 一緒に作業したり、楽しむ事で得意分野が発揮できるようにしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご家族に時折連絡を入れ、情報の共有に勤めている。受診同行や外出時の同行をお願いしたり、衣替えや書類の署名一つにしても出来る限り来ていただいたり、ご本人との関わりの中で、職員と一緒にご本人を支える役割を持ってもらい、関わってもらっている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) ご家族に入所後も出来るだけ生活習慣が継続できるように対応している。馴染みの医院への外出支援を行ったりしている。自宅への外出や外泊の援助をおこなっている。	
			(外部評価) 職員は、入居時に利用者が大切にしてきた人や場所の情報を家族から収集しており、入居後は日常のなにげない会話の中から利用者が行きたい所や会いたい人の情報を聴き取っている。今までのかかりつけ医への通院を継続できるよう支援したり、行きつけのスーパーへ買い物に同行する等して、それまでの関係が途切れないよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 一緒に活動できる作業を用意したり、個別に話を聞き、職員が仲立ちする事で関係を調整し、支援している。その日の心身の状況や気分、感情の変化に注意し、利用者同士の関係が円滑になるようにしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 他施設への住み替えや入院の際には、関係者に本人の状況、情報を細かく伝え、ご家族にも十分な支援をお願いした。ターミナルケアにて、グループホームで亡くなられた利用者のご家族が立ち寄って下さる場合もあり。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の暮らしの中で、利用者に声をかけて希望や思いを聞いたり、家族にも来訪時等に思いを聞いている。又、ご本人の表情や行動からから、思いを汲み取り把握に努めている。担当スタッフを位置づけ、より深く思いを受けとめれるように努めている。 (外部評価) 職員は穏やかにゆったりと利用者とは会話することを心がけ、思いや意向の把握に努めている。特に利用者とは1対1になることができる入浴介助時を捉えて話しを聴くようにしている。事業所では担当制をとっており、利用者の気持ちをより深く把握するよう努めている。意向を表すことが困難な利用者が増えており、職員は心がけて声をかけるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) ご本人のお話やご家族のお話から生活歴等の把握に努めている。これまでの生活習慣や暮らしについて把握できるよう努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人ひとりの生活のリズム、心身の状況を把握し、記録として残し把握に努めている。関わりの中での気づきを改善活動として取り組み、スタッフ全員で申し送りし、情報の共有に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) ご本人の思いやご家族からの要望、職員の気付きを検討し、ご本人本位の介護計画が作成できるように努めている。定期的にカンファレンスや評価を行い介護計画の見直しを行っている。又、利用者の状況に変化が見られた場合には、現状に合った介護計画を作成している。	
			(外部評価) 利用者と家族の思いや意向を確認し、利用者が役割を持って暮らせるよう計画に取り入れている。職員は介護計画を意識しながらケアを行い、記録に残す工夫をしている。担当職員が毎月モニタリングを行い、状態の変化がある時はその都度、無い場合は6か月に1回カンファレンスを持って職員が話し合い、現状に即したものになっているかを検討している。介護計画は家族来訪時に説明して同意を得ており、遠方の家族には郵送している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 申し送りやショートミーティング、カンファレンス、会議等で情報を共有、記録し実践や介護計画の見直しに生かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 医療連携体制を生かして、受診や体調管理を行っている。ご本人やご家族の要望等を配慮し、職員が馴染みの病院への受診を支援している。また、美容院は訪問美容を利用している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 民生委員や地区の方々に運営推進委員になってもらい、行事の際には協力を得ている。消防署立ち合いの元、半年毎に避難訓練を行っており、様々な指導をされている。各教育機関との協力や働きかけ、訪問がある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) ご本人及びご家族の希望するかかりつけ医を受診、職員が受診の支援を行っている。協力医療機関からの往診が月に2回あり、その都度相談に乗ってもらっている。 協力医療機関がかかりつけ医でない利用者も、希望すれば診てもらえる体制がある。	
			(外部評価) 利用者や家族が希望するかかりつけ医を継続して受診することができる。定期的な外来通院は家族が付き添うことを原則としているが、困難な場合は総合病院を含め職員が付き添っている。また、週1回看護師が来訪して健康管理を行うほか、協力医が月2回往診を行っているため、入居時に協力医をかかりつけ医に変更する利用者もいる。協力医は24時間緊急医療体制をとっており、利用者のみでなく職員も安心感を持っている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 週1回看護師の定期訪問があり、健康相談や医師との連携相談を行っている。利用者に状況の変化がある際には、随時対応できる体制がある。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時には、ご本人の支援に関する情報をご家族と相談しながら、医療機関に提供している。入院中は、ご家族や病院からの情報提供を受け、ご本人の状況を把握し、随時、カンファレンスを実施、退院後の受け入れがスムーズに行える様に、取り計らった。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 看取りに関する指針を定めており、ご家族の同意を得て、医師及び医療機関と連携し対応している。 入所時に、看取りに関する指針を説明し同意を得ている。ご本人の状況に合わせて、ご家族の希望があればグループホームで看取りが出来ることをお話し、ご希望があれば対応している。	
			(外部評価) 事業所では看取り指針を作成して、協力医と連携して看取りに取り組んでおり、今までに数名の看取り経験がある。住み慣れた事業所で最期まで過ごさせたいと希望する家族が増えており、職員は要望に応えたいと考えているが、一人体制になる夜間帯等に不安を感じている。職員は不安を解消するため、勉強会に参加して研鑽を重ねている。	家族の要望に応じて看取りを実施したいという思いはあるが、医療的判断やケアへの不安がある。特に夜間一人体制での看取りに大きな不安を感じている。職員が個々に感じている看取りに対する思いや不安を出し合い、安心して看取りケアを行うための要件について検討する機会を持つことを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 玄関先にAEDを設置している。消防署の普通救命講習に職員全員が参加し、AEDの使い方をスタッフが把握している。また、講習以外でも勉強会などあれば参加している。緊急時対応マニュアルの確認や応急手当の確認を会議等で行っている。 急変時や緊急時に、かかりつけ医の往診対応がある。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 毎月19日に事業所独自で避難訓練を実施している。マニュアルや緊急時連絡網を作成している。消防署立ち合いの元、半年毎に避難訓練を行っており様々な指導をしてもらっている。避難訓練時に運営推進会議を実施し、地域の方々に協力をお願いした。今後は、施設からの地域貢献についても取組んで行きたい。 (外部評価) 年2回消防署立会いのもと避難訓練を行うほか、毎月19日に重点項目を決めて自主訓練を行い、職員全員が災害時に適切な行動ができるよう努めている。最近では、歩行ができない利用者をかかえて階下に避難する訓練を行った。経験を踏まえて、突っ張り棒による家具の固定、避難確認をするための門札の工夫、車いすマークを居室入り口に掲示する等工夫をしている。避難訓練には住民の参加もあり、避難者の見守りを依頼している。災害時の備蓄に関しては、3日分の水と食料を用意し、定期的に交換している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 年長者として、誇りを大切に丁寧な言葉かけで対応している。ご本人の心に寄り添い、信頼関係を築ける様に心がけている。人前であからさまに介護したり、誘導の声掛けをして傷つける事が無い様に配慮している。 (外部評価) 管理者は、利用者を年長者として敬い、言葉遣いに注意して誇りや羞恥心に配慮した声かけをするよう指導しており、職員は優しく丁寧に話しかけるよう努めている。また、一人ひとりの意志を大切にして、利用者のペースを守り、無理強いをしないよう配慮している。入浴時同性介助を希望する利用者には意向に沿うよう考慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日常生活の中でご本人に相談したり、希望を聞いている。意思表示の出来ない方も、表情や反応から思いを汲み取り、対応するよう努めている。また、温かい雰囲気作りに心を配り、笑顔で対応するよう心掛けている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者一人ひとりの力を把握し、その日の体調や気分に合わせてながら、その人のペースに合わせた生活を送ってもらっている。また、体調の変化に気付く様積極的に声掛け等行っている。其々の得意な分野が生かせるような支援に努めている。利用者からの細かな要求にも、その都度対応している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 定期的に出張美容店の訪問をしてもらっている。要望があれば、なじみの美容院や理容院への外出を支援している。毎朝、更衣洗面し身だしなみを整える支援を行っている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 毎日、献立を知らせ、苦手な食材がある方は、代替献立を作っている。出来る人に声掛けし、一緒に料理をもらっている。職員も利用者と同じテーブルにつき会話しながら食事をしている。ホームの菜園で採れた野菜やご家族から頂いた野菜を料理に使っている。 季節毎の献立、行事食や誕生日の祝膳を行っている。 (外部評価) 食事班が作成した献立に添って、各ユニットで調理をしている。食材は担当者が注文して配達をもらうほか、特別な食品は利用者と一緒に行き物に行っている。嚥下が難しくなった利用者には、食事形態を工夫して十分な栄養が摂れるよう支援しており、職員も一緒に食卓を囲んで、ゆったりとした雰囲気での介助をしている。利用者は野菜の下ごしらえや食器洗い等、できることを手伝っている。また、誕生日は寿司と手作りケーキで祝っており、今年の花見には弁当を持って出かける計画がある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 利用者毎の食事摂取量や水分量を記録している。利用者別食事介助時の留意事項一覧表を作成し、一人ひとりの呑み込みの状態や好み等を職員が把握している。季節毎の献立を保健センター栄養士に、確認してもらいアドバイスしてもらった物を、利用者に合わせて更に改定している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、各居室洗面台にて口腔ケアを実施している。その人の状況に合わせた介助や見守りを行っている。夜間帯は義歯を外してもらい、洗浄している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 一人ひとりの習慣や排泄間隔のパターンを把握し、トイレ誘導する事で、トイレにて排泄できるような支援を行っている。日中は布のパンツとパットで過ごされている方もおられる。足台を利用する事で其々に合った便座の高さに調節し、トイレで排泄しやすい姿勢をとって頂く事により、自然排便に繋がるように工夫している。	
			(外部評価) 各ユニット内に2か所トイレがあり、職員は排泄パターンを把握して声をかけ誘導することにより、日中と夜間共になるべくトイレで排泄ができるよう支援している。夜間のみおむつやポータブルトイレを使用する利用者もいる。職員は利用者の状況や時間帯によって適した排泄用品を選択できるように、意見を出し合っていて決めている。また、トイレには足台が用意されており、利用者が楽に排泄ができるよう工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 繊維質の多い食品や乳製品を献立やおやつに取り入れている。飲水量を記録、生活の中で度々、飲み物を勧めたり、甘味料にオリゴ糖を使用したりしている。腹部マッサージ、便秘解消体操を取り入れている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 毎日入浴出来るように準備し、時間は、基本10:00~16:00ではあるが、利用者の希望する時間に入浴してもらっている。身体状況に合わせて、介助方法や介助人数を変え、安定した入浴ができるようにしている。改善活動として入浴班があり、塗り薬の一覧表を作成している。	
			(外部評価) 家庭用浴槽に週2~3回を基本に入浴できるよう支援している。浴槽への移動が困難になった利用者は、移乗台を使用して入浴したり、介護機器の座シャワーを使用して、気持ちよく温まることができるよう工夫している。入浴を嫌う利用者には、無理強いをしないよう柔軟に対応している。職員は、利用者が会話を楽しみながらゆったりと入浴ができるよう支援している。また、入浴班の考案で軟膏一覧表を作成し、適正な治療が行えるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中の活動を促し、生活のリズムを整えて頂けるように努めている。眠れない時は、好きな飲み物を勧めたり、ゆっくりした時間を過ごして頂き、休息出来る様に支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) それぞれの薬を理解、把握しており、名前、日付け等の区分を1つ1つ記入したり、いつ服用するか分かる袋を使用したり、誤薬のないよう声だし確認し、利用者に1回分ずつ手渡しし見守りや介助を行っている。受診時には、職員が同行し症状の変化等を詳しく医師に報告、相談している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの生活歴や力を生かして、畑での野菜作りや、料理、掃除等の役割を担ってもらい、気分転換や楽しみの支援を行っている。感謝の気持ちを伝える事で、やりがいを感じられている。本人の誕生日当日に誕生日を祝い、季節の行事を各担当者が計画、協力して実施し、入居者全員の交流や楽しみとなっている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 近所の公園に散歩に出掛けたり、個別に買い物に出掛けている。ホーム行事で利用者の希望する場所に外出したり、地方祭や盆踊り等、季節毎の地区の行事に地元ボランティアの協力を得て参加している。 身体状況に合わせた、外出支援をおこなっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 外出した際には、自分の財布からお金を出す機会を作り支援している。 預かり金については、個人別に金銭出納帳を記入し、ご家族に相談、報告しながら使用し、毎月収支報告書と明細を送付している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 家族や知人に電話が出来る声掛けや雰囲気作りの支援をしている。手紙や贈り物を頂いた際には、お礼の電話や手紙を書く援助をしている。 毎年、ご本人の写真入りの年賀状をご家族、知人に送る支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 居間は全員が囲める食卓やくつろげるソファがあり、畳みのスペースでは横になり休息できるようになっている。利用者はそれぞれが好みの場所で過ごす事ができる。台所からも利用者を見渡す事ができ、料理の音や匂いから家の生活を感じ取って頂いている。壁面の飾りを手作りし季節感をだしている。</p> <p>(外部評価) リビングには椅子席とソファ席、和室があり、利用者は思い思いの場所で過ごすことができる。和室スペースはデイサービス利用者がくつろぐ場所にもなっており、職員は利用者が一人隅で過ごすことがないよう配慮している。日中ほとんどの利用者がリビングで過ごし、訪問時も歌声が聞こえたり、塗り絵など手作業をする様子が見られた。壁には習字や塗り絵作品が飾られ、雛人形が置かれて季節感を感じられるよう工夫している。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 利用者同士でソファに座りくつろげる工夫をしている。椅子の配置を替え、台所に移動してもらったり、マッサージチェアを利用し、独りになれる空間を作っている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) ご家庭で、使い慣れた家具や生活用品、装飾品等をご本人に持参して頂いている。配置や飾り付けもそれぞれが好みの物になっている。ご家族の写真が飾られている。</p> <p>(外部評価) 居室にはエアコンと電動ベッド、洗面台が備え付けられ常備灯が設置されている。それぞれが馴染みの家具を持ち込んで部屋ごとに個性的な雰囲気になっている。仏壇を置いて毎朝のお茶湯を欠かさない利用者や、配偶者の写真と位牌を持ち込んでいる利用者もいる。孫やひ孫の晴れの写真や自作の作品、職員手作りの大吉おみくじが飾られ、落ち付ける雰囲気になっている。職員は日頃撮影した写真をそれぞれアルバムにして居室に置き、面会に来訪した家族もそれを見て楽しんでいる。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 椅子やテーブルは個人の体格に合わせた高さの物を使用している。浴室やトイレで補助具を使う事で、自分の力を生かせる工夫をしている。居室やトイレ浴室に大きく名札を掲げ、混乱や間違いの無いようにしている。</p>	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3873700409
法人名	株式会社 ステージアップ
事業所名	グループホーム優瑠里
所在地	愛媛県八幡浜市保内町喜木1-166-1
自己評価作成日	平成29年2月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成29年3月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・運営理念にもある、「笑顔」「心身の健康」「生きがい」を大切に日々の生活を送っている。また、明るい環境で笑い声がいつでも聞こえる。家族、知人、地域の方がいつでも遊びに来てくれるグループホーム。
 ・職員それぞれが改善活動として、食事班、排泄班、入浴班の3班に分かれ、利用者の改善すべき点や生活の質の向上、利用者の情報の共有に努めている。
 ・利用者一人一人の現在の有する能力を見極め、食材切り、洗濯物干し及び洗濯物たたみ等出来る事は何でもしてもらおう。その中でレクリエーションでは、職員、利用者共に楽しめるよう努めている。
 ・悪い所を見つけて治す医療的な介護ではなく、いい所を見つけて伸ばす保育的な介護を目指している。
 ・ヘルプ(余計なお世話によって、相手を物言わぬ受け身の人と変え、自分のやりたいことや意思を削いでしまう可能性がある)ではなく、サポート(やる気を出してもらうための黒子的な役割、出来ない所は手伝い、出来る事を伸ばし、自分にもできる事があると気付いてもらう)でありたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所はみかん畑に囲まれた閑静な新興住宅地の中にあり、開設して13年目を迎える。「笑顔、心身の健康、生きがい」という理念を掲げ、利用者も職員も笑顔で、利用者が役割を持って暮らしていくことができるよう支援している。運営推進会議には区長をはじめとして民生委員、老人会長、婦人会長、サロン世話人、ボランティア、介護相談員等様々な人々が参加し、熱心に協議を行いながら、事業所の行事や防災訓練に協力している。また、地域の幼稚園や保育所、小学校の行事に招待されて交流したり、地区の秋祭りには見物席を用意してもらう等、地域に受け入れられ根付いている。利用者のペースを大切にされた職員の穏やかな声かけの様子が印象的で、職員は熱い想いを持って研修に励み、利用者本位のケアを実践しようと努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム優瑠里

(ユニット名) Bユニット

記入者(管理者)

氏名 神野 順一

評価完了日

平成 29 年 2 月 18 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 「笑顔」「心身の健康」「生きがい」を理念にあげ、利用者の日々の暮らしを支えている。 スタッフ会議等でも理念について話し合い実践に繋げているが、個人差が多く感じられる。</p> <p>(外部評価) 開設当初に作成した「笑顔・心身の健康・生きがい」という理念を継承している。理念の中には、利用者も職員も笑顔で、少しの変化も見逃さず細心の注意を払って、利用者が役割を持って暮らしていくことができるよう支援したいという思いがこめられている。玄関には筆で描いた理念が掲示されており、職員はタイムカード横に貼られた理念を見ながら出勤している。また、重要事項説明書に掲載して家族にも周知しており、職員はケアに行き詰った時理念に立ち戻って考えるようにしている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域の行事や幼稚園、保育所、小学校の行事に参加し、交流している。地区の老人会長、自治会長に運営推進員になって頂いている。ホーム行事の際には、老人会や高校生、中学生、小学生にボランティアとして参加して頂いている。ご家族、知人、多くの方が協力して下さっている。</p> <p>(外部評価) 開設当初より近所つきあいを大切にしてきたことが根付き、地域行事に出かけたり、事業所行事に来てもらったりと、相互に交流する機会が恒例になっている。利用者は、幼稚園と保育所の運動会や音楽会に招待を受けて参加しており、小学校の運動会では特別席が設けられ、参加する競技を住民が手伝ってくれている。また、事業所が行う夕涼み会や地域の体育館を借りて実施する運動会は、地域住民やボランティア、家族が大勢参加して盛大に行われている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 行事の際、老人会や婦人会、高校生にボランティアとして参加してもらい、入居者との交流の中で認知症の方への理解を深めて頂く様に取り組んでいる。小学生や中学生の福祉体験の受け入れを行っている。運営推進委員や老人会の方々を対象とした、認知症学習会を施設長、管理者が中心となり実施した。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<p>(自己評価) 年間を通じて開催しており、事業所ないでの取り組みや活動、グループホームでの現状や課題を報告したり、行事に参加してもらい気付きや反省等の意見交換を行っている。会議の内容を職員にはスタッフ会議で報告し、出された意見や要望を話し合い、改善に生かしている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は家族や区長、民生委員、老人会長、婦人会長など様々な関係機関の代表者、市担当職員等多くの参加を得て2か月に1回開催している。会議では利用者の状況や活動報告のほか、テーマを設定した勉強会や避難訓練等を行い、参加者から意見や助言を得ている。会議は避難時の役割分担等、地区住民との協力体制を構築する上で重要な機会になっている。</p>	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<p>(自己評価) 運営会議に行政の方にも参加してもらっている。支援困難事例や事故報告等を随時報告、相談し意見をもらっている。 市主催のグループホーム連絡協議会に参加し、意見交換や行政の指導を受け、サービス向上に生かしている。</p> <p>(外部評価) 市職員は運営推進会議に参加して事業所の状況を把握しており、情報提供や助言を得ている。職員は介護保険手続きや報告に市担当課を訪れることが多く、良好な関係がとれていると感じている。成年後見制度利用の際は、地域包括支援センターの助力を得てスムーズに利用を開始することができた。また、毎月介護相談員が来訪し、第三者の立場で評価や意見をもらったり、利用者から時間をかけて話を聞いてくれており、連携がとれている。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>(自己評価) 身体拘束の排除の為の取り組みに関する理念及び方針を施設内の各スタッフルームホール側に掲示している。身体拘束、虐待は行わない事を全ての職員が正しく認識しており実践している。夜間帯の玄関の施錠を行っているが、日中は恒に開放している。</p> <p>(外部評価) 虐待防止ケアについて外部研修に参加し、研修内容を全職員が共有して拘束をしないケアに努めている。転落や転倒の危険がある利用者に対し、安全を確保するために4点柵を使用する際は、家族の了承を得て行っているが、夜間離床センサーを設置したり、床上にふとんを敷いて安全を図りながら自由に行動できるよう工夫している。また、共用空間に必ず見守る職員が1名居るよう、常に声を掛け合っている。言葉の拘束についても留意しており、カンファレンスで話し合って改善するよう努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 常に入居者の状態に注意を払い、スタッフ間で知らせている。スタッフ会議の議題として学んでおり、身体拘束、虐待は行わない事を全ての職員が正しく認識しており実践している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 社会福祉協議会より、社会福祉士を講師に招き研修会を開催した。研修参加者は、スタッフ会議時に研修内容を報告し、職員全体で学んでいる。制度利用の入居者がおり、制度を理解している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には重要事項説明書やパンフレットを使い、利用料金、職員体制、その他細やかな説明を行っている。分からない事や質問には繰り返し説明を行ったり、契約後の問い合わせにも対応している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 玄関に意見箱を設置している。来訪時や電話連絡、運営推進会議等で要望や意見を聞いている。毎月、さわやか相談員の訪問がある。出された意見は、スタッフ会議で検討している。 (外部評価) 職員は家族面会時に声をかけたり、事ある毎に電話連絡を行い、家族と話し合う機会を多く持つことが、良好な関係を築くことにつながると考えている。介護計画を更新する際は利用者と家族の意見や意向を確認し、来訪が難しい家族には電話で聴き取っている。また、担当者は毎月の便りに、利用者の生活の様子を書いた手紙を添えて家族に送付している。	職員は家族と共に利用者を支えたいと考えているが、様々な理由で疎遠となる家族も少なくなく、もっと事業所に足を運んでもらいたいと思っている。今後も行事案内や丁寧な連絡を続け、諦めないで働きかけを継続すると共に、関心を持って事業所の行事に参加してもらえるよう工夫することを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月スタッフ会議を行い、経営者と職員全員が参加し、研修報告や意見交換を行っている。ユニット毎に改善活動を行い、グループ毎に取り組んでいる内容を報告し、改善にむけて取り組んでいる。 (外部評価) 経営者と職員全員が参加するスタッフ会議が毎月開かれ、意見や提案を述べる機会がある。会議では、食事、入浴、排泄班の活動報告がされ、法人内他事業所とも交流している。全体での会議終了後グループホーム会議やユニット会議が開催され、ケアカンファレンスでは職員で話し合って介護内容の検討を行っている。職員は、年間個人目標を立て、年1回振り返りを行って自己評価し、レベルアップに努めている。事業所では子どもを産み育てながら就労できる労働環境や研修の補助制度が整備されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 勤務3年以上の職員には、特別手当や退職金共済への加入がある他、各資格手当の支給がある。経営者がスタッフ会議にて、経営報告や各手当等の説明を行っている。又、経営者がほぼ毎日顔を出し、職員の意見を聞いている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 多方面への研修の参加を実施している。職員全員にケアの技術や知識を身につける機会が確保されており、希望する研修に参加している。研修に参加した職員は、スタッフ会議にて研修内容を報告し、再学習する機会を設けている。介護福祉士試験等の資格取得の為に研修参加費用の一部助成がある。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 認知症実践者研修会への参加、市や南予グループホーム連絡協議会主催の研修会や勉強会に参加し交流を図っている。行事を通じて他施設と交流し、他施設の良い所を取り入れている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 利用前の面談でご本人やご家族の思いを十分に伺い、ケアプランを作成している。ご本人の思いを生かしながら、日常生活の支援をおこなっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ご本人を含めた面談とご家族のみの面談を行い、家族の思いを受け止められる様、努力している。 無理強いすることなく家族の思いが話せる様な関係作りをしていきたい。	
17		○初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 順番優先としているが、早急な対応が必要な相談者には、可能な限り柔軟な対応を取っている。 他のサービス機関の紹介や、グループホーム共用ディサービスの利用を進めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 支援する側、される側の意識を持たず、食事の準備、レクリエーション等共に楽しみながら過ごし、人生の先輩としての知識を学ばせてもらっている。 一緒に作業したり、楽しむ事で得意分野が発揮できるようにしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご家族に、こまめに連絡を入れ、情報の共有に勤めている。 来所時には、要望等がないかたずねているが、ご家族からは感謝の言葉が多い。 受診同行や外出時の同行をお願いしたり、衣替えに来ていただいたり、ご本人との関わりの中で、職員と一緒にご本人を支える役割を持ってもらい、関わってもらっている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) ご家族にセンター方式への記入をお願いし、長年なじんだ習慣や好みを把握し、入所後も出来るだけ生活習慣が継続できるように対応している。 (外部評価) 職員は、入居時に利用者が大切にしてきた人や場所の情報を家族から収集しており、入居後は日常のなにげない会話の中から利用者が行きたい所や会いたい人の情報を聴き取っている。今までのかかりつけ医への通院を継続できるよう支援したり、行きつけのスーパーへ買い物に同行する等して、それまでの関係が途切れないよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 一緒に活動できる作業を用意したり、個別に話を聞き、職員が仲立ちする事で関係を調整し、支援している。 その日の心身の状況や気分、感情の変化に注意し、利用者同士の関係が円滑になるようにしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 他施設への住み替えや入院の際には、関係者に本人の状況、情報を細かく伝え、ご家族にも十分な支援をお願いした。 ターミナルケアにて、グループホームで亡くなられた利用者のご家族は現在、立ち寄って下さる方はほとんど見受けられない。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の暮らしの中で、利用者に声をかけて希望や思いを聞いたり、家族にも来訪時等に思いを聞いている。 又、ご本人の表情や行動から、思いを汲み取り把握に努めている。担当スタッフを位置づけ、より深く思いを受けとめられるように努めている。 (外部評価) 職員は穏やかにゆったりと利用者とは会話することを心がけ、思いや意向の把握に努めている。特に利用者とは1対1になることができる入浴介助時を捉えて話しを聴くようにしている。事業所では担当制をとっており、利用者の気持ちをより深く把握するよう努めている。意向を表すことが困難な利用者が増えており、職員は心がけて声をかけるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) ご本人のお話やご家族のお話から生活歴等の把握に努めている。センター方式への記入をご家族にお願いし、これまでの生活習慣や暮らしについて把握できるよう努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人ひとりの生活のリズム、心身の状況を把握し、記録として残し把握に努めている。関わりの中での気づきをスタッフ全員で話し合い、記録に残している。また、10時に申し送りを実施。出勤者全員で情報共有している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) ご本人の思いやご家族からの要望、職員の気付きを検討し、ご本人本位の介護計画が作成できるように努めている。定期的にカンファレンスや評価を行い介護計画の見直しを行っている。又、利用者の状況に変化が見られた場合には、現状に合った介護計画を作成している。	
			(外部評価) 利用者と家族の思いや意向を確認し、利用者が役割を持って暮らせるよう計画に取り入れている。職員は介護計画を意識しながらケアを行い、記録に残す工夫をしている。担当職員が毎月モニタリングを行い、状態の変化がある時はその都度、無い場合は6か月に1回カンファレンスを持って職員が話し合い、現状に即したものになっているかを検討している。介護計画は家族来訪時に説明して同意を得ており、遠方の家族には郵送している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 申し送りやショートミーティング、カンファレンス、会議等で情報を共有、記録し実践や介護計画の見直しに生かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 医療連携体制を生かして、受診や体調管理を行っている。ご本人やご家族の要望等を配慮し、職員、ご家族が馴染みの病院への受診を支援している。散髪は訪問美容を利用している。ご本人と自宅に立ち寄り、ご家族との外出を支援している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 民生委員や地区の方々に運営推進委員になってもらい、行事の際には協力を得ている。消防署立ち合いの元、半年毎に避難訓練を行っており、様々な指導をしてもらっている。各教育機関との協力や働きかけ、訪問がある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価)</p> <p>ご本人及びご家族の希望するかかりつけ医を受診、職員が受診の支援を行っている。協力医療機関からの往診が月に2回あり、その都度相談に乗ってもらっている。協力医療機関がかかりつけ医でない利用者も、希望すれば診てもらえる体制がある。</p> <p>(外部評価)</p> <p>利用者や家族が希望するかかりつけ医を継続して受診することができる。定期的な外来通院は家族が付き添うことを原則としているが、困難な場合は総合病院を含め職員が付き添っている。また、週1回看護師が来訪して健康管理を行うほか、協力医が月2回往診を行っているため、入居時に協力医をかかりつけ医に変更する利用者もいる。協力医は24時間緊急医療体制をとっており、利用者のみでなく職員も安心感を持っている。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	<p>(自己評価)</p> <p>週1回看護師の定期訪問があり、健康相談や医師との連携相談を行っている。利用者に状況の変化がある際には、緊急時には連絡を取れない時もある為、随時対応できる体制は難しい。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価)</p> <p>入院時には、ご本人の支援に関する情報をご家族と相談しながら、医療機関に提供している。入院中は、ご家族や病院からの情報提供を受け、ご本人の状況を把握し、随時、カンファレンスを実施、退院後の受け入れがスムーズに行える様に、取り計らった。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>看取りに関する指針を定めており、ご家族の同意を得て、医師及び医療機関と連携し対応している。入所時に、看取りに関する指針を説明し同意を得ている。ご本人の状況に合わせて、ご家族の希望があればグループホームで看取りが出来ることをお話し、ご希望があれば対応している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>事業所では看取り指針を作成して、協力医と連携して看取りに取り組んでおり、今までに数名の看取り経験がある。住み慣れた事業所で最期まで過ごさせたいと希望する家族が増えており、職員は要望に応えたいと考えているが、一人体制になる夜間帯等に不安を感じている。職員は不安を解消するため、勉強会に参加して研鑽を重ねている。</p>	<p>家族の要望に応じて看取りを実施したいという思いはあるが、医療的判断やケアへの不安がある。特に夜間一人体制での看取りに大きな不安を感じている。職員が個々に感じている看取りに対する思いや不安を出し合い、安心して看取りケアを行うための要件について検討する機会を持つことを期待したい。</p>

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 玄関先にAEDを設置している。消防署の普通救命講習に職員全員が参加し、AEDの使い方をスタッフが把握している。緊急時対応マニュアルの確認や応急手当の確認を会議等で行っている。 急変時や緊急時に、かかりつけ医の往診対応がある。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 毎月19日に事業所独自で避難訓練を実施している。マニュアルや緊急時連絡網を作成している。消防署立ち合いの元、半年毎に避難訓練を行っており様々な指導をしてもらっている。避難訓練時に運営推進会議を実施し、地域の方々に協力をお願いした。今後は、施設からの地域貢献についても取り組んで行きたい。 (外部評価) 年2回消防署立会いのもと避難訓練を行うほか、毎月19日に重点項目を決めて自主訓練を行い、職員全員が災害時に適切な行動ができるよう努めている。最近では、歩行ができない利用者をかかえて階下に避難する訓練を行った。経験を踏まえて、突っ張り棒による家具の固定、避難確認をするための門札の工夫、車いすマークを居室入り口に掲示する等工夫をしている。避難訓練には住民の参加もあり、避難者の見守りを依頼している。災害時の備蓄に関しては、3日分の水と食料を用意し、定期的に交換している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 年長者として、誇りを大切に丁寧な言葉かけで対応している。また、名前を呼ぶ際は「さん」づけで対応している。ご本人の心に寄り添い、信頼関係を築ける様に心がけている。人前であからさまに介護したり、誘導の声掛けをして傷つける事が無い様に配慮している。 (外部評価) 管理者は、利用者を年長者として敬い、言葉遣いに注意して誇りや羞恥心に配慮した声かけをするよう指導しており、職員は優しく丁寧に話しかけるよう努めている。また、一人ひとりの意志を大切にして、利用者のペースを守り、無理強いをしないよう配慮している。入浴時同性介助を希望する利用者には意向に沿うよう考慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日常生活の中でご本人に相談したり、希望を聞いている。意思表示の出来ない方も、表情や反応から思いを汲み取り、対応するよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者一人ひとりの力を把握し、その日の体調や気分に合わせてながら、その人のペースに合わせた生活を送ってもらっている。其々の得意な分野が生かせるような支援に努めている。利用者からの細かな要求にも、その都度対応している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 定期的に出張美容店の訪問をしてもらっている。希望のある方は毛染めもすることができる。なじみの美容院や理容院への外出を支援している。毎朝、更衣洗面し身だしなみを整える支援を行っている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 毎日、献立を知らせ、ホワイトボードへ記入していただいている。職員も利用者と同じテーブルにつき会話しながら食事をしている。ホームの菜園で採れた野菜やご家族から頂いた野菜を料理に使っている。 季節毎の献立、行事食や誕生日の祝膳を行っている。	
			(外部評価) 食事班が作成した献立に添って、各ユニットで調理をしている。食材は担当者が注文して配達をもらうほか、特別な食品は利用者と一緒に買い物に行っている。嚥下が難しくなった利用者には、食事形態を工夫して十分な栄養が摂れるよう支援しており、職員も一緒に食卓を囲んで、ゆったりとした雰囲気ですべてを介助している。利用者は野菜の下ごしらえや食器洗い等、できることを手伝っている。また、誕生日は寿司と手作りケーキで祝っており、今年の花見には弁当を持って出かける計画がある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 利用者毎の食事摂取量や水分量を記録している。利用者別食事介助時の留意事項一覧表を作成し、一人ひとりの呑み込みの状態や好み等を職員が把握している。季節毎の献立を保健センター栄養士に、確認してもらいアドバイスしてもらった物を、利用者に合わせて更に改定している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、各居室洗面台にて口腔ケアを実施している。その人の状況に合わせた介助や見守りを行っている。夜間帯は義歯を外してもらい、洗浄している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 一人ひとりの習慣や排泄間隔のパターンを把握し、トイレ誘導する事で、トイレにて排泄できるような支援を行っている。日中は布のパンツとパットで過ごされている方もおられる。足台を利用する事で其々に合った便座の高さに調節し、トイレで排泄しやすい姿勢をとって頂く事により、自然排便に繋がるように工夫している。	
			(外部評価) 各ユニット内に2か所トイレがあり、職員は排泄パターンを把握して声をかけ誘導することにより、日中と夜間共になるべくトイレで排泄ができるよう支援している。夜間のみおむつやポータブルトイレを使用する利用者もいる。職員は利用者の状況や時間帯によって適した排泄用品を選択できるよう、意見を出し合っていて決めている。また、トイレには足台が用意されており、利用者が楽に排泄ができるよう工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 繊維質の多い食品や乳製品を献立やおやつに取り入れている。飲水量を記録、生活の中で度々、飲み物を勧めたり、甘味料にオリゴ糖を使用したりしている。腹部マッサージ、便秘解消体操を取り入れている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 毎日入浴出来るように準備し、時間は、基本10:00~16:00ではあるが、利用者の希望する時間に入浴してもらっている。身体状況に合わせて、介助方法や介助人数を変え、安定した入浴ができるようにしている。	
			(外部評価) 家庭用浴槽に週2~3回を基本に入浴できるよう支援している。浴槽への移動が困難になった利用者は、移乗台を使用して入浴したり、介護機器の座シャワーを使用して、気持ちよく温まることができるよう工夫している。入浴を嫌う利用者には、無理強いをしないよう柔軟に対応している。職員は、利用者が会話を楽しみながらゆったりと入浴ができるよう支援している。また、入浴班の考案で軟膏一覧表を作成し、適正な治療が行えるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中の活動を促し、生活のリズムを整えて頂けるように努めている。眠れない時は、好きな飲み物を勧めたり、スタッフと会話を楽しんだり、できることをお願いしたり、ゆっくりした時間を過ごして頂き、休息出来る様に支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) それぞれの薬を理解、把握しており、名前、日付け等の区分を1つ1つ記入し、誤薬のないよう服薬介助前に声をだして確認し、利用者に1回分ずつ手渡しし見守りや介助を行っている。受診時には、職員が同行し症状の変化等を詳しく医師に報告、相談している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの生活歴や力を生かして、畑での野菜作りや、料理、掃除等の役割を担ってもらい、気分転換や楽しみの支援を行っている。感謝の気持ちを伝える事で、やりがいを感じられている。本人の誕生日当日に誕生日を祝い、季節の行事を各担当者が計画、協力して実施し、入居者全員の交流や楽しみとなっている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 近所の公園に散歩に出掛けたり、個別に買い物に出掛けている。ホーム行事で利用者の希望する場所に外出したり、地方祭や盆踊り等、季節毎の地区の行事に地元ボランティアの協力を得て参加している。 身体状況に合わせた、外出支援をおこなっている。	
			(外部評価) 事業所周辺はみかん畑と新興住宅地になっており、天気の良い日は近くの公園まで散歩に出かけている。個別の買い物希望や定期外の専門科外来受診等、希望があれば応えるよう努めている。また、初詣や春探しドライブ、地区の秋祭り、みかん狩り、紅葉狩り等季節毎に遠出ができるよう支援している。家族の協力を得て外出する利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 外出した際には、自分の財布からお金を出す機会を作り支援している。 預かり金については、預かり時に預かり証をご家族にお渡ししている。入出金は、個人別に金銭出納帳を記入し、ご家族に相談、報告しながら使用し、毎月収支報告書と明細を送付している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 家族や知人に電話が出来る声掛けや雰囲気作りの支援をしている。手紙や贈り物を頂いた際には、お礼の電話や手紙を書く援助をしている。 毎年、ご本人の写真入りの年賀状をご家族、知人に送る支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 居間は全員が囲める食卓やくつろげるソファがあり、休息やコミュニケーションの場になっている。利用者はそれぞれが好みの場所で過ごす事ができる。台所からも利用者を見渡す事ができ、料理の音や匂いから家の生活を感じ取って頂いている。壁面の飾りも手作りして季節感をだしている。</p> <p>(外部評価) リビングには椅子席とソファ席、和室があり、利用者は思い思いの場所で過ごすことができる。和室スペースはデイサービス利用者がくつろぐ場所にもなっており、職員は利用者が一人隅で過ごすことがないように配慮している。日中ほとんどの利用者がリビングで過ごし、訪問時も歌声が聞こえたり、塗り絵など手作業をする様子が見られた。壁には習字や塗り絵作品が飾られ、雛人形が置かれて季節感を感じられるよう工夫している。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 利用者同士で、ソファに座りくつろげる工夫をしている。ご本人の居室と居間を自由に行き来できる。共同生活の中でストレスを感じている利用者には、個別に関わり思いを聞いている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 利用者が家庭で使用していた馴染みの家具やテレビを持ち込んでおり、配置や飾り付けもそれぞれが好みの物になっている。ご家族の写真やご本人が大事にされているアルバム類がある。</p> <p>(外部評価) 居室にはエアコンと電動ベッド、洗面台が備え付けられ常備灯が設置されている。それぞれが馴染みの家具を持ち込んで部屋ごとに個性的な雰囲気になっている。仏壇を置いて毎朝のお茶湯を欠かさない利用者や、配偶者の写真と位牌を持ち込んでいる利用者もいる。孫やひ孫の晴れの写真や自作の作品、職員手作りの大吉おみくじが飾られ、落ち付ける雰囲気になっている。職員は日頃撮影した写真をそれぞれアルバムにして居室に置き、面会に来訪した家族もそれを見て楽しんでいる。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 椅子やテーブルは個人の体格に合わせた高さの物を使用している。浴室やトイレで補助具を使う事で、自分の力を生かせる工夫をしている。居室やトイレ浴室に大きく名札を揚げ、混乱や間違いの無いようにしている。</p>	